

初倉地区小学校再編に関する湯日小学校区での意見交換会について

日頃から島田市の教育行政に御理解と御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

島田市教育委員会では、昨年9月に「島田市教育環境適正化検討委員会」からの提言を受け、学校再編などの教育環境整備に取り組んでいるところです。

提言書では、初倉小学校と湯日小学校を統合し、将来的には初倉南小学校を初倉小学校に統合した上で、初倉中学校を含めた準一体型の小中一貫校とすることを検討すべきと示されています。提言では「将来的に」とされていますが、教育委員会では、初倉小学校、湯日小学校、初倉南小学校の3校を同時に統合することについて検討をしています。

湯日小学校区において、初倉地区の小学校再編に関する保護者、地域住民の皆様との意見交換会を開催しました

3月9日に、初倉西部ふれあいセンターにおいて、湯日小学校の保護者、今後湯日小学校へ進学する未就学児童の保護者、湯日小学校区の自治会の皆様を対象に、学校再編に関する意見交換会を開催しました。

教育委員会からの説明

<提言を受けての検討事項>

教育環境適正化検討委員会から最終提言書を受けた後、教育委員会定例会や平成30年度第2回総合教育会議で、「学校再編について」をテーマとして、市長と教育委員との意見交換を実施しました。

その中で、提言書で示す、湯日小学校を先行して初倉小学校と統合し将来的には初倉南小学校を統合した上で初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫校とすることも検討すべき、という再編案に対して、初倉地区の中では、3校同時統合を望む方の声も聞いている等の意見や、現在、初倉地区では「夢育」や「地育」を初め、大変成果の上がる取り組みをしているため、その初倉地区でもう一步進め、「小中一貫教育」これを推進していくことで島田地区の第一歩となる可能性が高いのではないかと、そういった期待感を持った意見が出されました。

教育委員会では、3校同時統合についての意見がどのくらいあるのか確認をする必要があり、統合に対する意向を聞くため、12月13日、12月17日、1月19日に、初倉南小学校区の保護者や地区の方を対象に意見交換会を開催しました。

その時には、具体的に時期を示したほうが意見を出して頂きやすいということから、初倉小学校の校舎規模で受け入れが可能となる、普通教室数が25クラスになる2022年度（平成34年度）という案を提示させていただきました。

その場では、大きく分けて、次のような意見がありました。

- 登下校の距離が延びることによる交通安全等の不安
- 現在のクラス数が各学年2クラスあるため初倉南小学校は統合不要
- 学校施設の充実が必要である

なお、再編時期として提案させていただいている、2022年度（平成34年度）は決定事項ではありません。

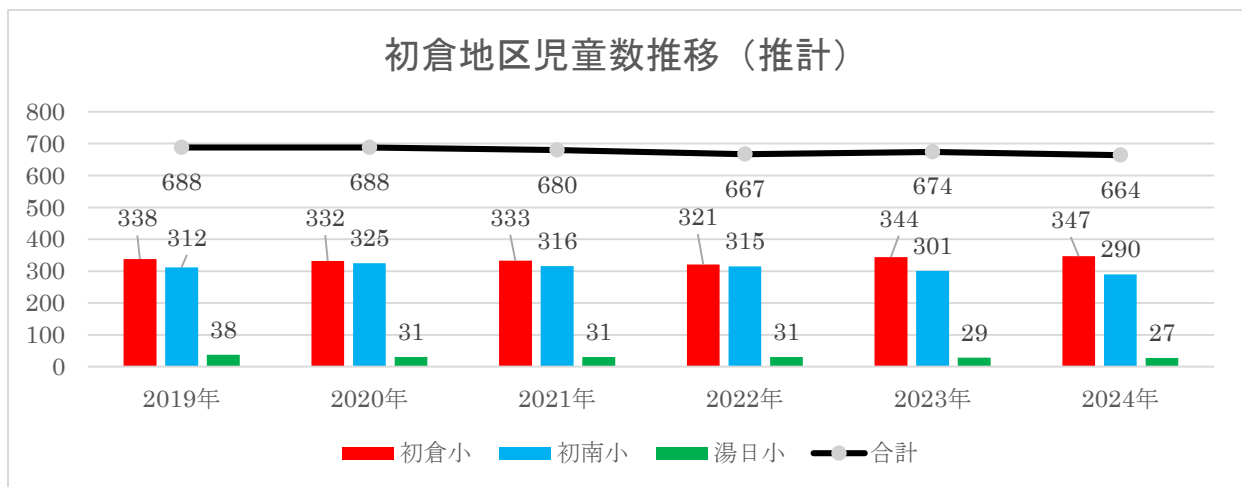
<初倉地区の児童数の推移推計>

3校同時に統合した場合の人数とクラス数ですが、2019年度（平成31年度）では、児童数は688人で27クラス、2024年度（平成36年度）には、児童数が664人となり、クラス数は24クラスになると予測されます。

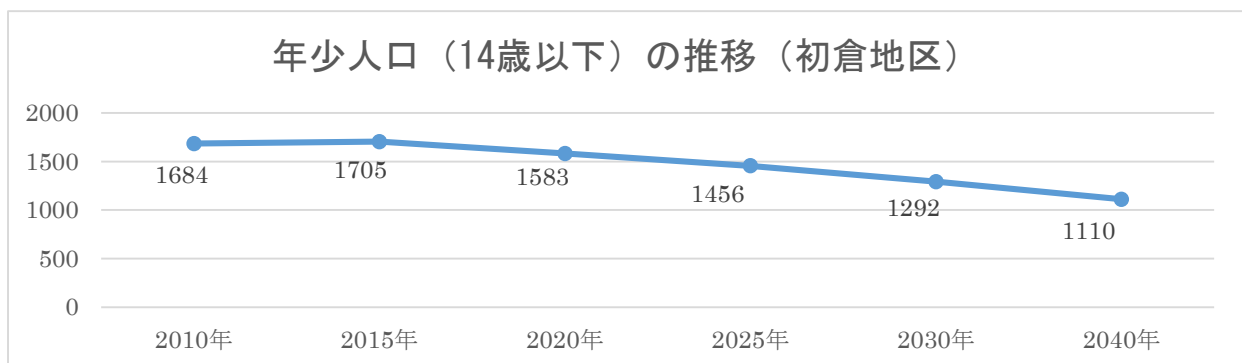
湯日小学校を見ると、平成31年度は、児童数は38人でクラス編成は、1年生と6年生が単学級、2年生と3年生、4年生と5年生がそれぞれ複式学級となり、4クラス編成となりますが、2024年度（平成36年度）には、全ての学年で複式学級となることが推測されます。

また、学校の学級編成について、国の方針で定められている人数は、小学1・2年生が1学級35人、小学3年生から中学3年生までは40人を上限とする学級編成となっています。しかし、静岡県では、どの学年であっても、子供たちのための、きめ細やかな教育を実現するという施策として、県独自の「静岡式35人学級編成」を推進してきました。

島田市でも、静岡式35人学級編成を選択しているので、現在では小学1年生から中学3年生まで、基本的には1クラス35人以下の学級編成となっています。



現時点では、初倉小学校と初倉南小学校の規模に大きな違いはありませんが、平成27年に作成した「島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によりますと、今後人口減少が進み、これに平行して子供の数も減っていく推計となっています。



<小中一貫教育について>

9年間の指導の一貫性を図るため、教員間の情報交換を密に行い、小中学校間の円滑な接続を目指して取り組むものであります。小中一貫教育により、小中学生が一緒に活動したり、教員が相互にそれぞれの学校へ出向いて指導したりすることによって、児童生徒の意欲が高まり、より質の高い教育を目指すものであります。「夢育・地育」の取組について、初倉地区を研究指定し、その効果を引き出すために小中連携を進めてきました。

<スクールバス等について>

初倉小学校に統合した場合の通学方法について、自宅から小学校までの距離が4km以上、中学校までの距離が6km以上の場合、スクールバス等の対応を検討していきます。初倉小学校から4kmの位置は、実際に測定していませんが、地図上で計測すると、概ねこの初倉西部ふれあいセンターの場所くらいとなり、今後検証し検討していく必要はあると感じています。

また、この距離については、文科省で示している「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」の中の「学校の適正配置（通学条件）通学距離による考え方」の中で、小学校4km、中学校6kmが示されていることから、現在、市内の対象地区については、この距離を適用し運行を行っているところであります。

なお、バス停の場所や運行コース、又はスクールバス、混乗バスなどの運行方法について、今後十分に地域の実情に合ったよりよい方法を、検討していきたいと考えています。

いただいた御意見

- 中学生、小学生、未就学児の子供がいる。今の湯日小の状況を見ると、平成32年に統合したほうがありがたい。
- 今の4年生以下はクラスに女子1人若しくは男子1人という構成が続いている。初倉中に行った長男の様子だが、同じクラスに湯日小で仲の良かった子が1人いるが、所詮20~30人いるうちの2人。また、横の席が女の子であった。慣れていないため、とても緊張、周りに気を遣っている状況のようであった。少人数から大勢の中に入る子はストレスになる。それに加え中学という生活の変化。うまくつなげられないと友達の輪に入ることもままならない。交流事業があったとしても、自分を出せないこともある。在校生のことを考えると、3校同時統合は負担が大きい。やめて欲しい。
- おいおい3校統合となった場合、校舎はどうするのか。平成34年統合と言っているが、図面等が提示されていない。平成34年度に校舎は準備できるのか。
- 平成33年に娘が小学校に入学する。統合には賛成する。しかし、少人数での登校に不安を感じている。（1人が休むと集団登校にならない）スクールバスも検討いただいております、スルールバスであれば登下校も安心する。
- 反対が多い状況のまま平成34年度を迎えることに不安を感じる。
- 湯日小の子が100人規模のところ突然入るのは難しい。湯日小と初小の統合が決まったら交流事業をして欲しい。

- このような情報やメリットは湯日小だけでなく、初南小の保護者にも出して欲しい。統合までの2年をどのように使うか、示していただけると前向きになれるのではないか。
- 今回の統合の件、応援している。提言書の表紙に書いてあるとおり「子供を最優先に」でお願いしたい。
- 統合には反対ではない。時期についても特にない。
- 自分自身は初倉中に通っていた。当時は4kmで自転車。説明でスクールバスが4kmとあったが、その基準は。自分の家は初倉西部ふれあいセンターより東にあるので4km未満だが初倉小まで3kmはある。その距離を低学年に歩かせるのは負担だし安全面でも不安。また同じ湯日小に通っていた子がバスと徒歩に分かれるのも疑問である。
- 統合により小学校がなくなると湯日に住むメリットが薄れる。転出者が増え高齢化が進むと思う。湯日の基幹産業であるお茶を含め、湯日の活性化をどのように考えているのか。
- 初倉中校長に湯日小の子についてうかがった。「湯日の子は優秀です。でもおとなしい」自分のときの特徴が今も続いている。小規模だから心配ではなく、小規模だから良いのではないか。小規模だから子供たちのことを細かく見てあげられる。
- 経済規模や施設面のみで教育を見ていると、教育はおろそかになっていく。
- 地域の人口を増やしたい。笹間地区に知り合いがいて笹間中の統廃合の話聞いた。地区が寂しくなったとのことであった。